

( 2 ) **drafting/** = 製図機能

**arowchn** = arrow change

連続寸法線を修正します。寸法線の先端種(矢印)同士が近すぎる場合に、矢印を指定の先端種へ変換します。

#### ユーザー

##### 処理呼出し

ボタンで一覧表示

**drafting/**

**arowchn**

##### 第1寸法線指定/終了

斜線 左/下

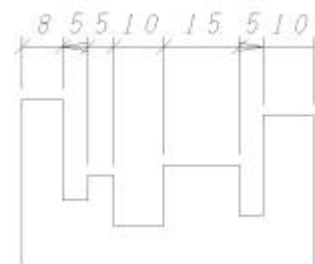
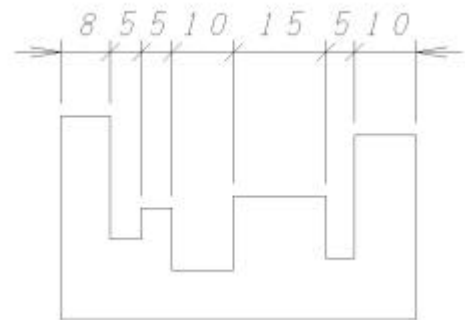
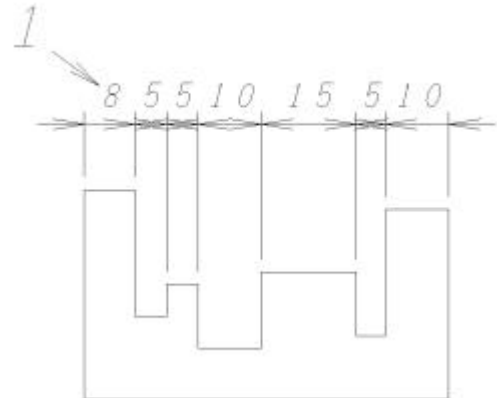
( 左/下 という設定なので画面左から指示します )

( 1 )

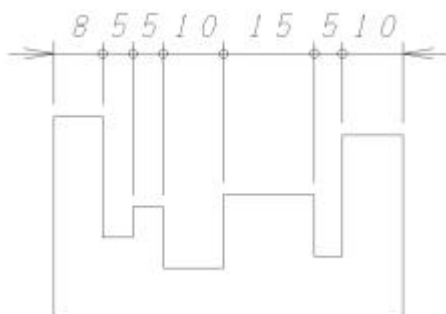
##### 第2寸法線指定/終了

( 続きの寸法を順番通りに選択します )

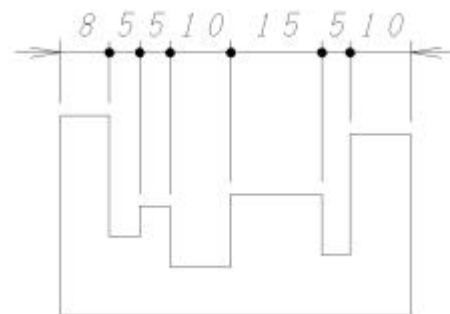
< 終了 >



失敗例



円



塗潰し円

#### \* 注意

左/下 の指示の時、画面右の要素から選択すると、右図のようになるので注意して下さい。

**coordlabl** = coordinate label

指示した点の座標値等を、引出線にして表示、編集します。製図機能の中に入っていますが、モデル作成か製図の3Dビューでのみ使用できます。

## **ユーザー**

### **処理呼出し**

ボタンで一覧表示

**drafting/** **coordlabl**

### **- 引出線作成**

### **位置を指示**

文字=\_\_\_\_\_ 矩形

開き矢印 XYZ

座標系含む パラメータ

最終削除 割付解除

( 1 ) **端 点**

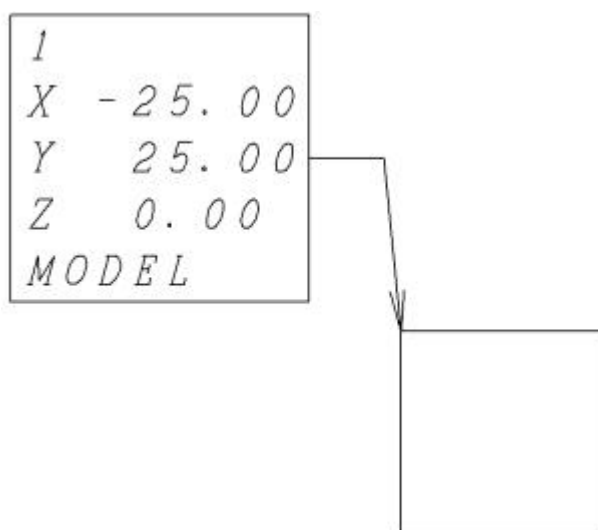
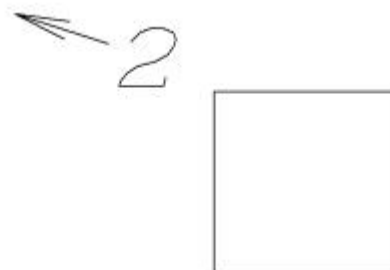
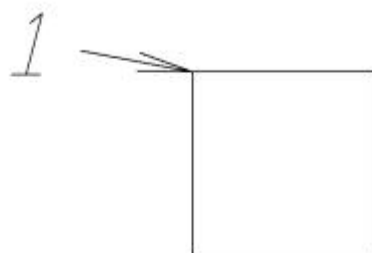
### **配置指示**

( 2 ) **画面上**

### **新位置を指示/<終了>**

(ここで配置位置の変更ができます。)

変更がなければ <終了>



パラメーター内の変更をして、まとめて表にすることもできます。

drafting/      coordlabl

# - 引出線パラメーター

## パラメータ/<CR>

mm    文字サイズ(mm)=5.000

standard    寸法.#

カウンタ    開始カウント=1

中心座標なし    平面定義

文字角度(度)=0.000

モデル    インデックスのみ

ファイルに書き込まない

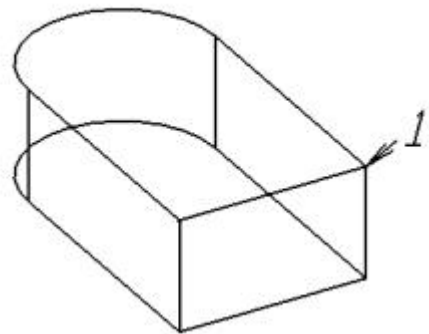
(平面定義 を指示)

平面定義:      表    示

平面上の点指示      ( 1 )

点 OK?      はい

プロンプト域を    <指定> 又は <CR>



# - 引出線作成

## 位置を指示

文字=a      矩形

開き矢印      X Y Z

座標系含む    パラメーター

最終削除    割付解除

<サブメニュー>    端    点    ( 1 )

配置指示      ( 2 )

<終了>

位置を指示      ( 3 )

配置指示      ( 4 )

<終了>

位置を指示      ( 5 )

配置指示      ( 6 )

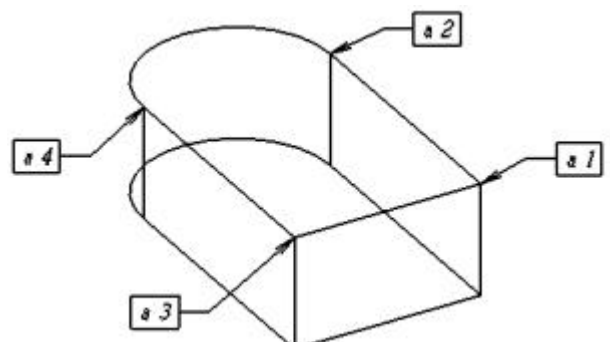
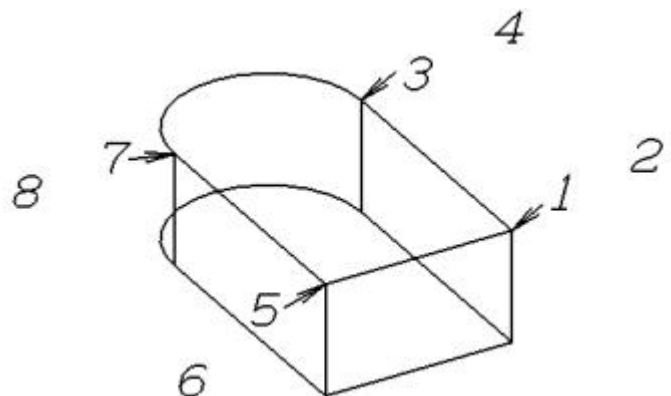
<終了>

位置を指示      ( 7 )

配置指示      ( 8 )

<終了> 2 回

テーブル作成 ?      はい



パラメータ作成 ? はい

パラメータ選択 / <CR>

mm 文字サイズ(mm)=5.000

standard 寸法.##

平面定義 表題 上

新しいテーブル 座標表示

法線非表示 中心非表示

座標系非表示

プロンプト域を <指定> 又は <CR>

引出線指定 / 終了

(引出線を選択します)

( 1 , 2 , 3 , 4 )

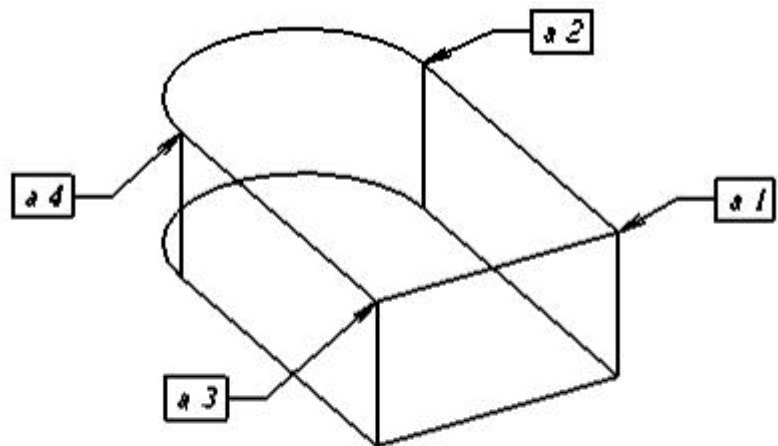
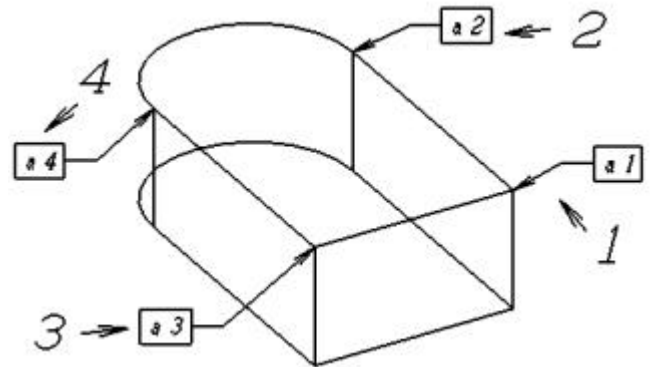
< 終了 >

左上コーナー指示

(画面上を指示すると、矩形が表示されるので好みに位置を指定)

指定したら < 終了 >

テーブル OK? はい



INDEX	X	Y	Z
a1	25.0	-35.0	30.0
a2	25.0	35.0	30.0
a3	-25.0	-35.0	30.0
a4	-25.0	35.0	30.0

**dicirtbl** = display circle table

指定した円の直径と中心の座標値を表にして表示します。表は部品として扱われます。

**ユーザー**
drafting/

- dicirtbl

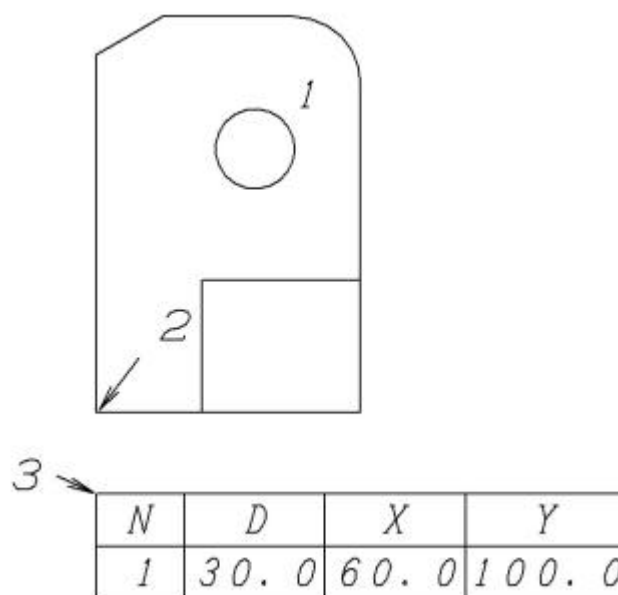
**要素指定し<終了>**  
(円を選択) (1)  
<終了>

**テーブル名入力**  
(表の登録名を入力)

**参照点を指示**  
(参照点の位置からの座標値が出るので基本は原点を指示)  
(2)

**左上コーナー指示**  
文字サイズ=5 寸法.#  
開始番号=1  
(開始番号が表中のNの番号の初期値となる)  
(3)

**テーブル OK?** はい  
<終了>



N = 開始番号

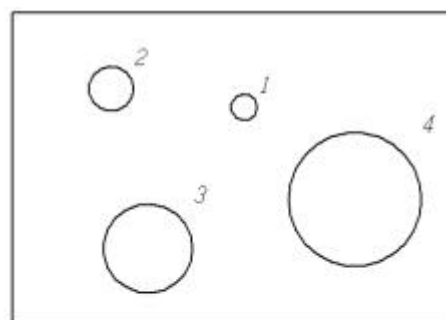
D = 円直径

X = X座標値

Y = Y座標値

### \*注意

複数個の円を指示した場合、選択した順番ではなく、直径サイズの小さいものから自動的に並べられます。



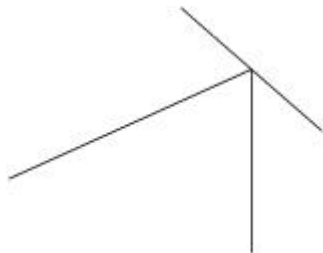
N	D	X	Y
1	6.0	52.1	48.9
2	10.0	22.1	53.1
3	20.0	30.4	17.2
4	30.0	77.0	28.2

`drwtyp` = draw type

ビューを作成する時、レイヤの表示、非表示で要素を画面に出し **モデル全体?** はい で選択し、図面に取り込みすると、図面のレイヤで制御されている為に、非表示にしてある要素が表示されたり、表示した要素が非表示されることがあります。それを、ビューのレイヤ表示の状態で図面上に配置できるようにします。



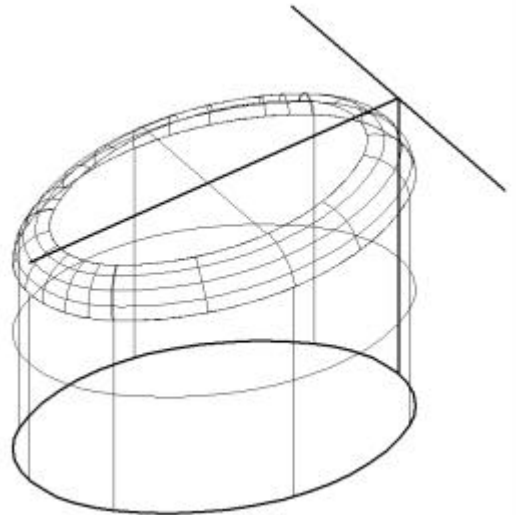
レイヤ `UE` の要素



レイヤ `YOKO` の要素



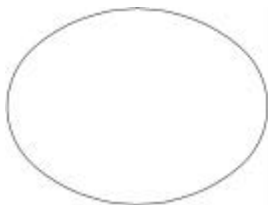
レイヤ `ISO` の要素



モデル全体

モデル領域で各レイヤのみの表示にしてから、製図領域に入りビューを**モデル全体?** はい で作成します。（ビュー作成ごとにモデル領域へ戻ることになります。）

レイヤ `UE` のみ表示



ビュー `UE`

レイヤ `YOKO` のみ表示



ビュー `YOKO`

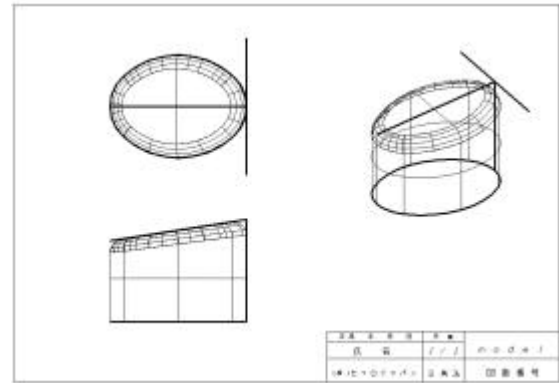
レイヤ `ISO` のみ表示



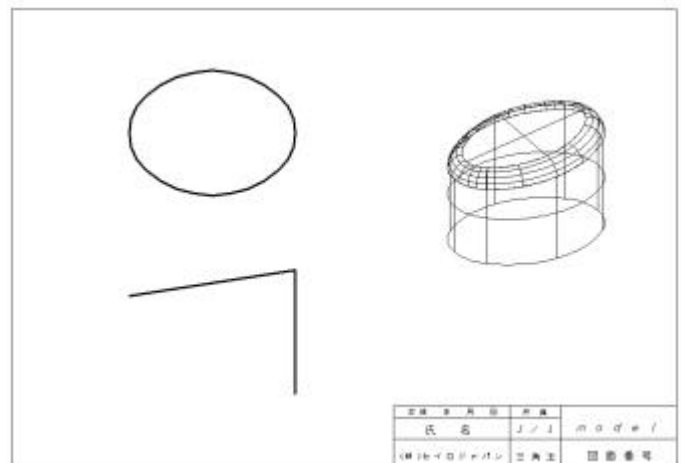
ビュー `ISO`

図面に入りビューを配置します。

レイヤを全て表示させると、右図のようになります。そこでユーザーコマンドを指示します。



ユーザー	drafting/
-	drwtyp
図面を選択	
(ビューの表示で制御したい図面を選択します)	



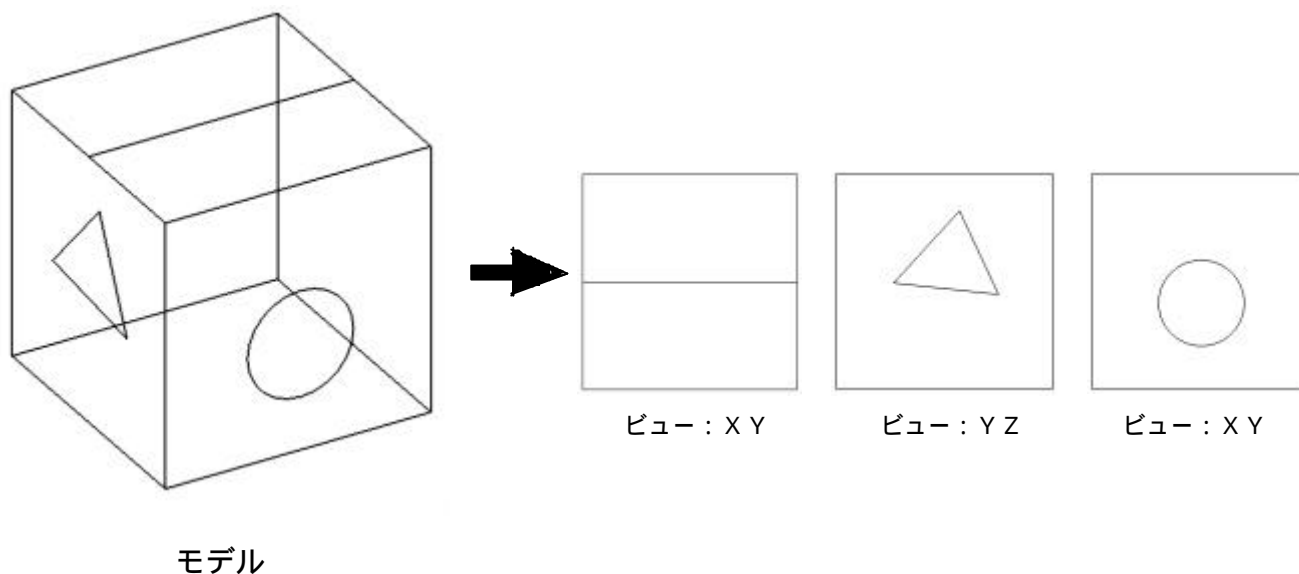
### \* 注意

ビュー作成時に、**モデル全体?** いいえ を選択し、必要な要素のみ指示すれば、レイヤの表示、非表示に関係なく選択要素のみの表示になります。

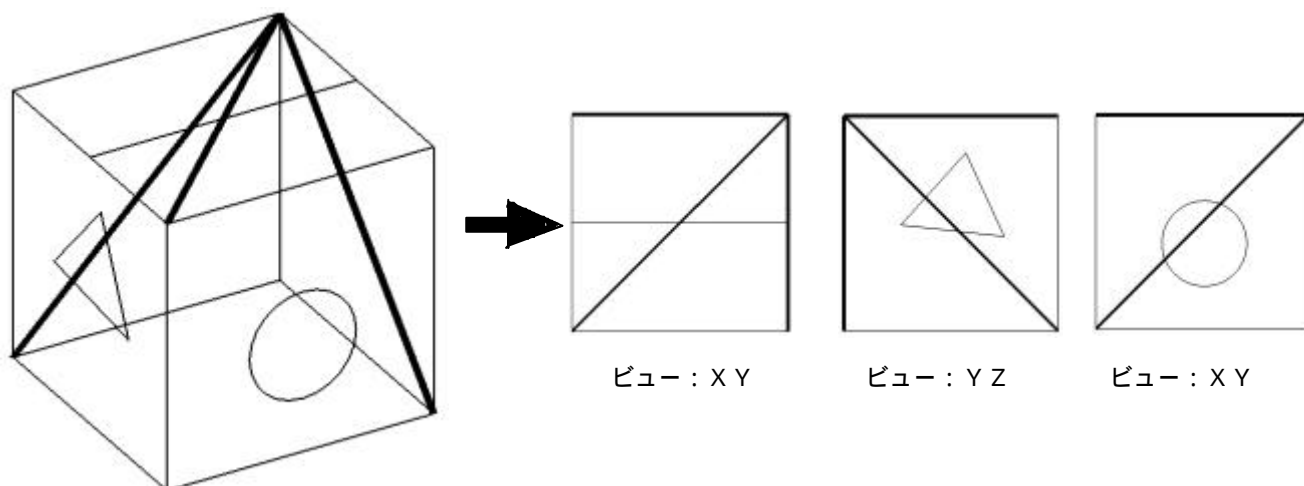
`freez` = freeze

ビュー作成後にモデルに要素を追加すると、追加された要素がビューに表示されます。  
それをビューに反映させないようにします。

`freez` を指定した後に追加させたい要素があれば、`製図` `ビュー` を指示したところで、ボタンを押すと `追加` のコマンドが現れるので、そこで選択します。



モデルに要素を追加します。すると、ビューにも自動的に要素が追加されます。



モデル領域へ戻り、太線を削除し元の形に戻します。

`削除`



ビュー：XY のみ  を指示します。

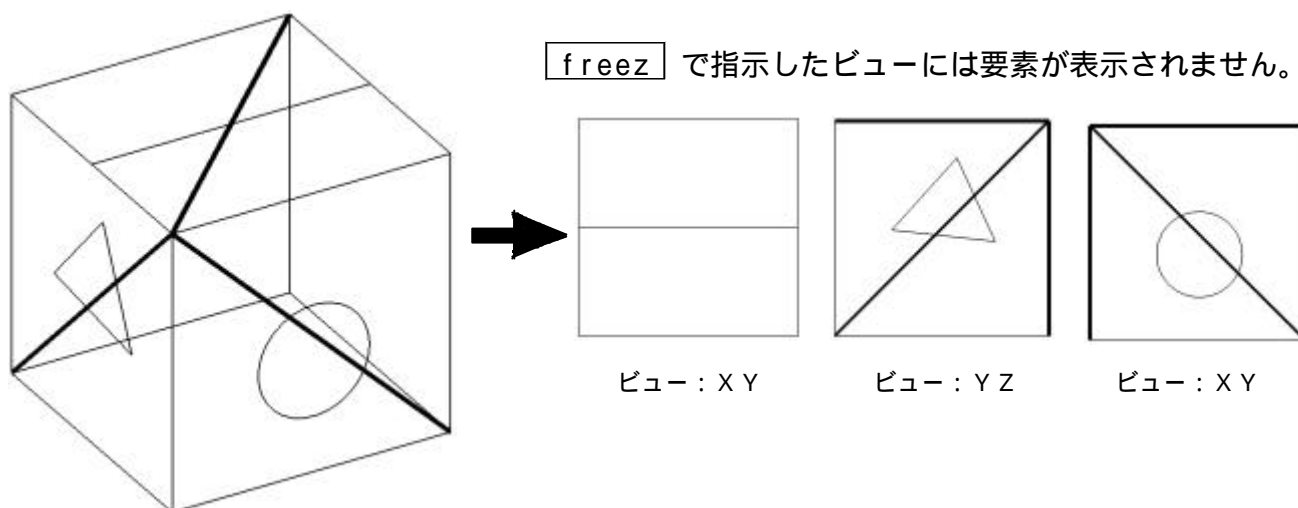
ユーザー

-

ビューを選択

( 反映させたくないビューを選択します。今回は  )

再度、モデルに要素を追加します。



`model` = `model`

製図領域の要素をモデル領域へ取り込みます。

I G E S 変換等で S T A T I O N に読込んだ要素がモデル領域では表示されず、製図領域へ入ってしまった時等に使用して下さい。（ N C 領域で作成した要素をモデル領域に反映させたい場合にも使用できます。）

**\*注意**

コマンド使用中に Esc キーを押すとフリーズすることがあるので注意して下さい。

**ユーザー** `drafting/`

- `model`

**変換元の形式を選択**

ビュー 図面

（プロンプト域の指示通りに、  
モデル領域へ移動させたい  
ビュー、又は図面を選択し  
た後、要素を指示する）

**titlebox** = title box

表題欄を作成します。但、列の変更はできますが、行間は一定幅になります。

**ユーザー**

drafting/

- **titlebox** - **作成**

- **新規作成**

**テーブル名入力**

(好みの名を入力) < C R >

**左下を指示**

高さ=50          幅=100

文字サイズ=5    行=5

列=3

<サブメニュー>

端 点

増 分

( 1 )



D X = -100.00	D Y = 0.000	D Z = 0.000
直交座標	モデル	

**高さ**    表題欄全体の高さ

**幅**    表題欄全体の幅

**文字サイズ**    あらかじめ入力する文字のサイズを決めます。大きすぎると、文字サイズに対してテーブルの高さが足りません とメッセージが出ます。

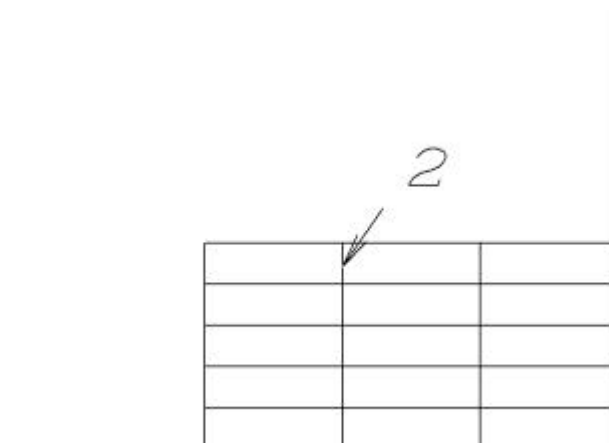
**行**    表題欄の高さを指定した行数で割ります。

**列**    表題欄の幅を指定した列数で割ります。

**列指定/終了**

(移動させたい列があれば、その列を指示する)

( 2 )



**位置指示**

(「画面上」等で指示すると  
入る文字数が表示されます)

( 3 )

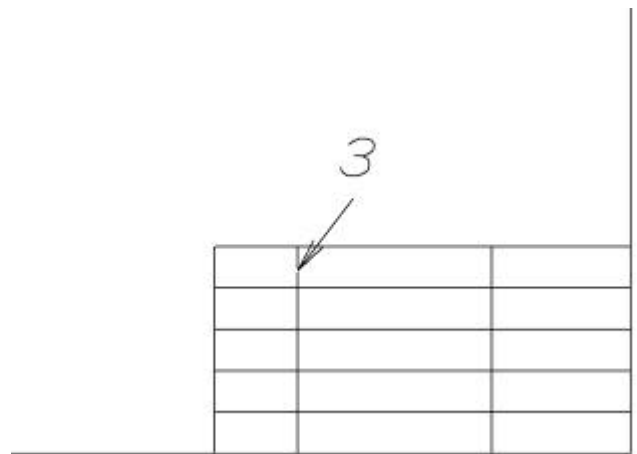
文字数=×

<終了> 2回

**テーブル** OK?

はい

<終了>




`txt_conv` = text convert

注釈文字、引出線のフォントを変更します。

ユーザー

drafting/

- txt\_conv

要素指定し<終了>

standard

( standard をクリック)

メニューからフォント

standard ucset 1

ucset10 ucset 9

(好みのフォントを指定し、変更させたい文字を指示する)

指示した後 <終了>

#### \* 右図のフォント

- 1 = standard
- 2 = ucset 1
- 3 = ucset 10
- 4 = ucset 9

1 = あいうえお  
2 = あいうえお  
3 = あいうえお  
4 = あいうえお

#### \* 応用

C:\Winnt\Fonts の中に以下のフォントがある場合、それらのファイルをC:\Phi10\dat\fonts にコピーすると STATIONで使うことができます。( STATION上ではファイル名が表示されません。)

- | フォント名                  | ファイル名            |
|------------------------|------------------|
| 5 = H Gゴシック E - P R O  | ----- hgrgep.ttf |
| 6 = H G丸ゴシック M - P R O | --- hgesmp.ttf   |
| 7 = H G正楷書体 - P R O    | ----- hgrskp.ttf |

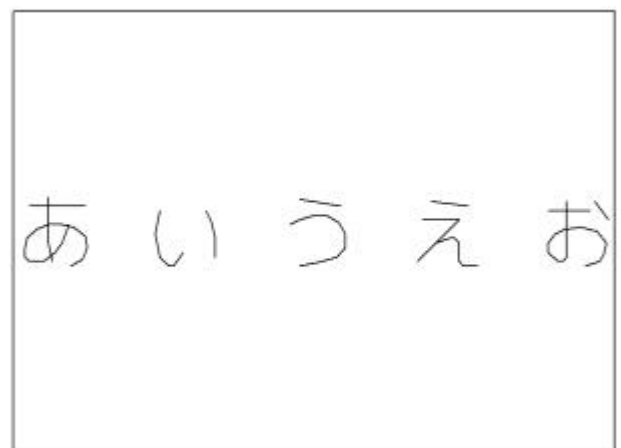
5 = あいうえお  
6 = あいうえお  
7 = あいうえお

**txtbybox** = text by box

矩形で指定された範囲に収まるように、注釈文字の文字サイズを自動計算して配置させる。(縮小もできます。)

(但、バグが有り矩形表示されません。)

<b>ユーザー</b>	drafting/
- <b>txtbybox</b>	
<b>注釈文字指定</b>	
矩形表示	( 1 )
<b>第 1 コーナー指示</b>	
<サブメニュー>	<b>画面上</b>
	( 2 )
<b>第 2 コーナー指示</b>	
<サブメニュー>	<b>画面上</b>
	( 3 )
<b>注釈文字 OK?</b>	はい
	<終了>



**\* 注意** 矩形表示されませんのでご了承下さい。